

八幡製鉄所誕生と歩み



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」を構成する官営八幡製鉄所旧本事務所

本年から123年前の1901年（明治34年）2月5日、遠賀郡八幡村（現・北九州市八幡東区）に建造された溶鉱炉に火が入り、鉄生産の官営八幡製鉄所が稼働した。その約1世紀後の2015年7月、「明治日本の産業革命遺産」の要所の一つとして、ユネスコ（国連教育科学文化機関）により世界文化遺産に登録されて本年で10年を迎えた。その歴史は郷土・北九州の誇りであるとともに国内はもとより世界に引き継がれ、人類の発展に寄与した意義を持つ。その歩みを改めて学びたい。

日本の近代製鉄誕生は日清戦争が契機

日本での近代製鉄の歩みは1871年（明治4年）、明治維新を機に岩倉使節団が欧米先進国の富国強兵の基礎に鉄炭力があることを見出し、近代的製鉄所建設が必要なことを知ったのが始まり。国内でも金石で江戸時代からすでに製鉄が行われていたが、明治政府は軍備拡張のために

近代的な製鉄所建設が欠かせないとして海軍省所管の製鉄所建設を主張。だが莫大な費用が必要なことから帝国議会に否決された。

転機は1894、1895年（明治27、28年）の日清戦争。政府のみならず世論も製鉄所建設に同意し1895年、帝国議会が製鉄所設立を可決。建設候補地を選択の末、全国17か所の設立請願地の中から最終的に遠賀郡八幡村、企救郡柳ヶ浦、同郡板櫃村、広島県安芸郡坂村の4か所が最終候補地として残り、さらに検討の結果、八幡村が「洞海湾は浅いが船、海底の改造で鉱石の運搬は可能。地価が安く用水が確保できる」ことなどから、1897年（明治30年）2月6日、政府は八幡での設置を決定した。

政府の候補地決定の背景には、八幡への製鉄所誘致を図った地元運動もあった。その中心的な役割を担ったのは旧福岡藩士で若松の若松築港会会長の安川敬一郎、同社役員平岡浩太郎、製鉄事業調査会委員の長谷川芳之助や若松町町長

芳賀與八郎、八幡村村長芳賀種義の親子。

前年の1896年、若松の安川邸での会合で誘致運動に乗り出すことを決していた。当時の政府の農商務次官で製鉄所設立委員長だった金子堅太郎も同じ旧福岡藩士。だが、当時の洞海湾は浅く船舶乗り入れの難所だったことから山内堤雲製鉄所長官らは八幡に難色を示していた。一転、同意したのは安川らの熱烈な運動、湾掘削計画の提唱。さらには、地域住民が土地の無償提供を申し出たことな



官営製鉄所時代の高炉跡に立つ旧東田第一高炉跡（北九州市指定文化財）

ども重なった。

一方、製鉄所建設用地確保の買収に反対する地元住民が神社などに立て籠もり「村長を殺せ」と訴える等の騒ぎも相次いだ。最終的には「八幡百年の大計に基づくものだ」との説得に地元も応じた。こうした官民挙げての協力の末、八幡での製鉄所建設が決定し1897年（明治30年）製鉄所が開庁、4年がかりで溶鉱炉を建設し1901年（明治34年）2月5日、高炉に火が入った。

ドイツの製鉄所の技術導入、設備調達、指導の協力を得たもので、日産160トンの能力。だが当初から数年間は機器不調で1日わずか16トンしか生産できないといった状況。赤字続きで翌年7月から約2年間操業中止に追い込まれるなどの危機に遭ったが、失敗原因の調査、改良を

を経て1910年（明治43年）に初めて黒字に転換できた。

人の知恵・工夫で鉄は今後も人類、社会に欠かせない

こうした暦年の日本国民の奮闘、努力、海外からの援助・協力により日本の、また製鉄業の発展は遂げられてきた。一方でこれにより、衰退を余儀なくされた産業もある。「たたら吹製鉄」といわれる業。明治34年の八幡製鉄の火入れ、操業開始以降、中国山地のたたら製鉄業は急速に衰退、明治期、従業員約15万人が離職し、家族の生活が失われる問題が発生。失業者の多くは炭鉱や炭焼き職人などとして苦労を与儀なくされた。

八幡製鉄所は1934年（昭和9年）、官営と複数の製鉄業者の合同による日本

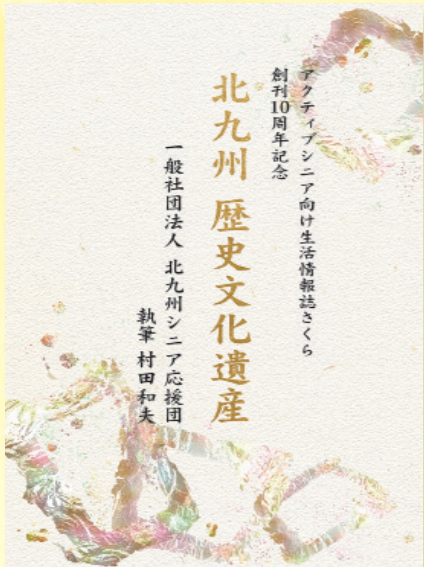
製鉄株式会社として再スタートし、以後再編成を繰り返して2020年（令和2年）4月、現在の日本製鉄株式会社九州製鉄所八幡地区」の名称になった。「鉄」の歴史家、研究家松井和幸氏（元北九州市立いのちの博物館員）はその著「鉄まで」で、北九州の地から「八幡製鉄所」の名称が消えたことについて「今後、19、20世紀のように鉄の大量生産、大量消費は見られなくなるであろう。今日では地球温暖化問題に伴い脱炭素社会の実現が叫ばれている」としながらも「鉄はまだしばらくは私たちに最も身近な金属であり続けるであろう」と製鉄所の意義を記述している。

シニアスタッフ 村田和夫

ついに完成 創刊10周年記念

北九州 歴史文化遺産

北九州の知られざる史実を独自取材で記した記事の集大成です。ぜひお手にとってご覧下さい。



- ◆発行 一般社団法人 北九州シニア応援団
- ◆執筆 村田和夫 ◆A4サイズ87ページ
- ◆価格 1,500円(税込)

読めばこの町がもっと好きになる!



ご購入・お問い合わせ さくら編集部 TEL 093-965-6080